

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：32672

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K01661

研究課題名（和文）ボール運動領域・ゴール型、保健領域・運動と健康における縦断的・追跡的研究

研究課題名（英文）Longitudinal and follow-up research on ball movement/goal type, health/exercise and health

研究代表者

今関 豊一（IMAZEKI, Toyokazu）

日本体育大学・児童スポーツ教育学部・教授

研究者番号：30353410

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：「ボール運動領域・ゴール型」、「保健領域・運動と健康」について、中学年及び高学年の教材開発・授業方略の検討を行い単元計画および略案・学習カードを作成した。授業者には、作成した単元計画等の資料をもとに事前に実技を伴う研修会を行った。これによって異なる授業者であっても、ある一定の水準が維持された。

授業実践から得られた結果を縦断的・追跡的に分析したところ、小学校1年生のゴール型・ゲットボールから小学校3年生までにおいて、認知過程の「記憶する」だけでなく「応用する」子どもの数が増加した。また、動きの質（学習カード上の記述から）も向上の変容が見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校低学年と中学年においてゴール型球技の教材開発を行い、実証的に認知過程次元の知見を得た研究はみあたらない。また、本研究で開発した教材の「ゲットボール」は、全ての子どもに「投げる・捕る」の学習を保証できる可能性を有している。本研究で開発した単元計画、学習内容、教材は、資質・能力の育成に貢献する。投能力の低下に対応もできる。体育の授業実践に利用できる教材開発は社会的意義を大いに有しているであろう。

研究成果の概要（英文）：This study was developed the teaching materials of "ball movement/goal type" and "health/exercise and health" in elementary school and examined the class strategy. A unit plan and a draft/learning card were created. For the teachers, we held a workshop with practical skills in advance based on the materials such as the unit plan that we created. This maintained a certain level even among different teachers.

A longitudinal and follow-up analysis of the results obtained from the lesson practice in the first through third grades of elementary school the "get-ball" showed that the number of children by the cognitive process increased in "applied", "remembered". In addition, the quality of movement also changed (from the description on the learning card).

研究分野：健康・スポーツ科学 身体教育学

キーワード：体育科教育 ゴール型 運動と健康 縦断的・追跡的研究 小学校低学年

[基本ルール]

- ・内野 2 人と外野 2 人が味方同士。
- ・味方同士でパスが通ったら 1 点。
- ・パスのコースはコート内のタテ方向のみ。
- ・サイドラインから投げ入れることはできない。
- ・外野は、エンドラインから後方 2 メートルの範囲と、横はサイドラインの幅の範囲でボールを捕れば 1 点。
- ・外野が外野の範囲内でボールを捕れなかったときは相手ボール。(キャッチできなくてファンブルしても範囲内でボールを捕れば 1 点。)
- ・ボールがサイドラインから出た時は相手ボール。
- ・ゲームの時間は 1 分 30 秒。

[コートサイズ]

- ・バドミントンコート縦に使う。左コートと右コートの区分は、真ん中に区切りの補助線を入れる。
- ・使用ボールは、スマイルハンドボール 1 号 (150g)

(2) 保健領域・運動と健康の授業づくり

小学校第 2 学年の授業開発として「心ぞうドキドキ」の授業を開発した。「運動と健康が関わっていることについての具体的な考えがもてるように、長く運動すると、汗が出たり、心臓の鼓動や呼吸が速くなったりすることを「ゲーム・鬼遊び」の単元の最後に位置づけて実施した。

(3) 作成した授業に関する縦断的・追跡的研究

縦断的に追跡調査してきた第 3 学年を対象に、「ゲーム・セストボール」単元で学習過程における子どもの思考の変容を分析した。第 1 学年から第 3 学年までの個人追跡を実施し、思考の変容を抽出しに絞って分析した。その結果、認知過程の「記憶する」だけでなく「応用する」の子どもが増加した。また、動きの質を学習カード上の記述から検討したところ、向上の変容が見られた。第 1 学年から第 3 学年間の追跡した運動技能下位に分類した子どもは、体育の学習について情意面に変化が見られ、肯定的になった。今回開発した「たいせんゲットボール」「ゴール型・セストボール」の教材は、資質・能力としての思考・判断が向上する可能性が示唆された。

(4) 学習内容の可視化と指導方略

資料は、第 2 学年で実施した「たいせんゲットボール」の単元計画の一部である。毎学年、このような単元計画を作成し、授業者の学級担任を対象に実技を伴う事前研修を行った。実施前年度に当該地域とは別の地域で授業開発を行った。実施年度は、前年度までに準備した単元計画、学習指導案、学習カード、教具のボール等を使用して、当該地域で実技研修を実施した。

学習内容は、「主部+述部」の単文で可視化した。学習対象としての動きが明確になるよう、「は、すること」と記述し、動きの対象と体の動き方の具体が見えるようにした。学習指導要領及び解説の例示を踏まえ、運動に苦手意識のある子どもでも、運動の学習が成立する動きを学習内容とした。

単元計画の構成は、「学習内容」を示すこと、「使用言語」として用いるキーワードを示すこと、「学習活動」は思考・判断の学びを時系列の流れで示すこと、時系列の流れは毎時の縦の流れと 6 時間完了の横の流れで構成することとした。

<参考・引用文献>

佐藤 政臣、「一人学び」を取り入れた学習プロセス、体育科教育、67 巻 12 号、2019、42 - 45

時間	1	2	3	4	5	6	
学習内容	ボールを投げたり、捕ったりする動きを身につけること -1 ボールを投げるときは、ボールを両手で持ち、頭上から手を速く振って強く投げる。 -2 ボールを捕るときは、飛んでくるボールに手のひらを当てて落ちたボールを捕ること(捕れないときは、はじいて捕ること)。	ボールを投げるときは、相手がいらないところに投げる。 -2 ボールを捕るときは、飛んでくるボールに手のひらを当てて落ちたボールを捕ること(捕れないときは、はじいて捕ること)。	ボールを投げるときは、相手は捕れなくて味方が捕れる強さとコースで投げる(両手でも、かた手でもよい)。 ボールを捕るときは、飛んでくるボールの方向に捕ること(飛んでくるボールのコースに入る)。	ボールを捕るときは、相手に手をはじいて、キャッチしないときは手のひらに当てて落とすこと(捕れないときははじいて捕ること)。 -1 ボールを捕るときは、味方の一人がはじいたボールをもう一人が捕ること。(一人での立ち位置) 中の二人の内、一人がボールに詰めることは取り扱わない。禁止事項。	ボールを投げるには、相手に捕られない高さ(高さ)とコースには、1)相手のいないこと、2)相手の間や横、3)フワンと相手を超える、4)足下にバウンドさせるがある。 -2 ボールを捕るときは、はじくときにもう一人の味方がいる方にはじくこと(二人で協力する)。	ボールを投げるには、相手に捕れない高さ(高さ)とコースには、1)相手のいないこと、2)相手の間や横、3)フワンと相手を超える、4)足下にバウンドさせるがある。 -2 ボールを捕るときは、はじくときにもう一人の味方がいる方にはじくこと。	ボールを投げるには、相手に捕れない高さ(高さ)とコースには、1)相手のいないこと、2)相手の間や横、3)フワンと相手を超える、4)足下にバウンドさせるがある。 -2 ボールを捕るときは、はじくときにもう一人の味方がいる方にはじくこと。
使用言語	両手(かた手)でピュン!手のひらに向けて	相手のいないところ、手のひらに向けて	味方が捕れるへそに向けて	ジャンプしてはたくもう一人のひと	高さ(コース)はじき方、二人で協力	チームの作戦!	
学	5 10 15 20 25 30 35 40	準備運動「壁当てボール投げ」 ドリルゲーム(的当てゲーム) 振り向き ドリルゲーム(的当てゲーム) 振り向き	準備運動「壁当てボール投げ」 やくそく投げ(ドリルゲーム)、説明、確認 ゲットボール(ドリルゲーム) 振り向き メインゲーム(たいせんゲットボール両面)ゲームをこなす パス交換をうまくさせる 振り向き	準備運動 ドリルゲーム(的当てゲーム) やくそく投げ もんたい(発問) よそする(自分の考えを書く) たしかめよう(ほしのゲームで確かめる) 考えの修正 たしかめよう(チームで確認) メインゲーム 振り向き	準備運動 ボール慣れ ドリルゲーム(的当てゲーム) もんたい(発問) よそする(ずとやじるしで書く) 約束投げ 備かめ、話し合う メインゲーム(たいせんゲットボール) 作戦タイム 振り向き	準備運動 ボール慣れ ドリルゲーム(的当てゲーム) 作戦タイム 振り向き メインゲーム(たいせんゲットボール) 作戦タイム は、待っているときや移動のときに行う。 振り向き	準備運動 ボール慣れ ドリルゲーム(的当てゲーム) 作戦タイム 振り向き メインゲーム(たいせんゲットボール) 作戦タイム は、待っているときや移動のときに行う。 振り向き
学習活動	学習のルール準備運動「壁当てボール投げ」 ドリルゲーム(的当てゲーム)の行い方 ドリルゲーム(的当てゲーム) 振り向き	準備運動「壁当てボール投げ」 ドリルゲーム(的当てゲーム) 振り向き ドリルゲーム(的当てゲーム) 振り向き	準備運動「壁当てボール投げ」 やくそく投げ(ドリルゲーム)、説明、確認 ゲットボール(ドリルゲーム) 振り向き メインゲーム(たいせんゲットボール両面)ゲームをこなす パス交換をうまくさせる 振り向き	準備運動 ドリルゲーム(的当てゲーム) やくそく投げ もんたい(発問) よそする(自分の考えを書く) たしかめよう(ほしのゲームで確かめる) 考えの修正 たしかめよう(チームで確認) メインゲーム 振り向き	準備運動 ボール慣れ ドリルゲーム(的当てゲーム) もんたい(発問) よそする(ずとやじるしで書く) 約束投げ 備かめ、話し合う メインゲーム(たいせんゲットボール) 作戦タイム 振り向き	準備運動 ボール慣れ ドリルゲーム(的当てゲーム) 作戦タイム 振り向き メインゲーム(たいせんゲットボール) 作戦タイム は、待っているときや移動のときに行う。 振り向き	準備運動 ボール慣れ ドリルゲーム(的当てゲーム) 作戦タイム 振り向き メインゲーム(たいせんゲットボール) 作戦タイム は、待っているときや移動のときに行う。 振り向き
	学習のまとめ 振り向き	学習のまとめ	学習のまとめ	学習のまとめ	学習のまとめ	学習のまとめ 振り向き	

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 今関豊一	4. 巻 60
2. 論文標題 未来につなぐ 主体的・対話的で深い学び～体育授業の改善・構築に向けて～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女子体育	6. 最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今関豊一	4. 巻 67
2. 論文標題 育成を目指す資質・能力とこれからの学習評価、授業改善の方向性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今関豊一	4. 巻 2
2. 論文標題 評価の観点の読み取りと捉え直しから保健体育科の授業をつくる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育・実践ライブラリ Vol.2評価と指導～全面实施直前・各教科等の取組課題	6. 最初と最後の頁 33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今関豊一	4. 巻 30
2. 論文標題 新学習指導要領に対応した学習評価の在り方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 体育科教育学研究	6. 最初と最後の頁 35-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 福ヶ迫善彦、今関豊一、富永泰寛、鈴木一成
2. 発表標題 小学校1年生及び2年生の体育授業における思考力の変容に関する事例的検
3. 学会等名 日本体育学会第69回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福ヶ迫善彦、今関豊一、岡田雄樹
2. 発表標題 セストボール系のゲーム単元における子供の思考の変容に関する事例的検討
3. 学会等名 日本体育学会70回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福ヶ迫 善彦 (HUKUGASAKO Yoshihiko) (20398655)	流通経済大学・スポーツ健康科学部・教授 (32102)	
研究分担者	鈴木 一成 (SUZUKI Kazunari) (50736767)	愛知教育大学・教育学部・准教授 (13902)	
研究分担者	久保 元芳 (KUBO Motoyoshi) (90451707)	宇都宮大学・教育学部・准教授 (12201)	